

コード No. 10045

**Anti-Human  
Amyloid  $\beta$  (N3pE) (8E1) Mouse IgG MoAb**容量 : 50  $\mu$ g

- はじめに** : アルツハイマー病の最初のケースは、1907年ドイツの神経病理学者 A. Alzheimer に報告されました。アルツハイマー病患者の脳に多く現れる老人斑はアミロイドベータ蛋白 (Amyloid  $\beta$ ) により構成されており、アルツハイマー病の主な要因と考えられています。Amyloid  $\beta$  は 40~43 アミノ酸からなるペプチドで、 $\beta$ -および  $\gamma$ -セクレターゼの働きにより、前駆体蛋白 APP (695, 751 または 770 アミノ酸からなる膜蛋白) から切り出されてくるといわれています。  
1995年 Saido らにより、Human Amyloid  $\beta$  の 3 番目のグルタミン酸がピロール化された Human Amyloid  $\beta$  (N3pE-42) が、老人斑で認められる新しい Amyloid  $\beta$  分子として発見され (文献 1)、その役割について興味を持たれています。
- 免疫抗原** : 3 番目のグルタミン酸がピロール化された Human Amyloid  $\beta$  の N 端部分合成ペプチド
- 起源** : マウス×マウス ハイブリドーマ (培養上清)  
(X63-Ag8.653×BALB/c マウス脾臓細胞)
- クローン名** : 8E1
- サブクラス** : IgG2a
- 精製方法** : 抗原特異精製
- 包装形態** : 1% BSA, 0.05% Na<sub>3</sub>N 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法** : 蒸留水 1.0ml 添加 (この時濃度は 50  $\mu$ g/ml となります)
- 保存方法及び安定性** : 2~8°C 保存 5 年間安定  
溶解後 -20°C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法** : 免疫組織染色 0.5~1  $\mu$ g/mL にて使用可能  
ホルマリン固定 パラフィン包埋切片の場合ギ酸処理\*によって染色性が著しく向上します。  
\*ギ酸処理方法: 脱パラフィン後ギ酸に 5 分間浸漬した後、流水洗浄  
: ウェスタン ブロットティング 約 0.5  $\mu$ g/ml にて使用可能
- 特異性** : ヒト Amyloid  $\beta$  (N3pE) 特異的。同量のヒト Amyloid  $\beta$  (1-40)、(1-42) および (1-43) は、ウェスタン ブロットティングでは検出されません。
- 参考文献** : 1. Saido T.C., Iwatsubo T., Mann D.M.A., Shimada H., Ihara Y., and Kawashima S. Dominant and differential deposition of distinct  $\beta$ -amyloid peptide species, A $\beta$  N3 (pE), in senile plaques. Neuron 14, 457-466 (1995).